

2390 | 金工基礎実習 I

2 単位 (面接授業 2 単位)

鈴木洋教授、高橋勇一郎講師

授業の概要と目標

工芸は、自然から得た素材を主な材料として生活の用具を制作する事である。素材の開発や制作技術の工夫、生活様式の変わり様が工芸の変遷を形成するが、基本的には自然素材に根ざした技術と造形の洗練さにその本質を見ることができる。ここでは伝統的基礎技術を実習することで素材と造形、制作技術と用途など工芸制作の基本に触れ、さらには今日の生活とモノの在り方について考察する。

この科目では、金属加工用の槌、当金等を使用し、銅板を槌起加工と焼鈍をくり返し、平面から立体へ成形する鍛金技法を習得する。板金絞り加工による器の制作を通して金属の焼鈍による組織の軟化、展延性の向上と、加工硬化の特性を理解し、鍛金による造形の可能性を研究する。

なお、この科目は 2013 年度まで開設された「工芸Ⅲ」の素材別金工クラスと同一の内容である。

課題の概要

○面接授業課題

鍛金技法により銅板素材から容器を制作する

授業計画

[面接授業]

- ・容器のデザインと型紙の作図、制作
- ・銅板を槌起加工と焼鈍をくり返し行い、容器を制作

成績評価の方法

面接授業の最終日に提出された図面や作品で評価し、授業態度等を加味する。

履修条件及び履修年次

[履修年次] 1～4 年次

[履修条件] なし

[備 考] 履修年次は問わない。

- ・2013 年度まで開設の「工芸Ⅲ」金工クラスの受講者は異なる素材の基礎実習を受講することが望ましい。
- ・受講人数を制限する場合がある。
- ・工芸工業デザイン学科生活環境デザインコースへの進学希望者は、素材別基礎実習Ⅰ・Ⅱの科目の他、「工芸Ⅰ・Ⅱ」の履修を勧める。

教材等

参考資料：横溝健志 監修『工芸』（武蔵野美術大学出版局 2002 年）